

被害者による社会復帰・自立支援モデル構築活動

MDT 通信 27 号でもお伝えしました被害者による社会復帰・自立支援モデル構築のための活動支援が、いよいよ本格的に動き始めました。

被害者同士の助け合いを中心とした活動については、NGO にその活動を担ってもらう必要があることから、JICA の枠組みでどう支援できるかについて、昨年の 7 月からタイ事務所と話合いを重ねてきましたが、ようやく今年 4 月末の契約に至りました。最終的には NGO に委託するという形になりましたが、この間、モデル構築のために必要な活動、委託先や担当者に関する情報、さらには会計処理に至るまで、細々とした確認事項が多く、9 ヶ月間の長い道のりを経ての署名に喜びも一入でした。

委託先は Foundation For Women (FFW) という女性の人権や広く権利の問題に取り組んできている、タイでも老舗の NGO です。FFW は人身取引分野でも積極的に活動を展開しており、入国管理局の拘留所における人身取引被害者のスクリーニングをしたり、北タイのミャンマーとの国境近くにシェルターを設置してミャンマー人人身取引被害者を保護したりしています。今回の委託事業では、これまで FFW が育成してきた人身取引被害者のピアサポートグループの活動を支援し、そこから得られた知見をもとに、被害者中心の社会復帰支援モデルを構築し、MDT 強化につなげようというものです。

5 月 24-25 日の二日間、契約後初のワークショップが開催されました。ピアサポートグループ

のメンバーは現在約 70 名ですが、その中核となるメンバー 9 人をグループのリーダーとして育成することになり、今回はそのリーダー育成研修の第一弾でした。テーマは法律で、人身取引

対策法の勉強や被害者が加害者を訴追するのに必要な支援についてのメンバー同士のディスカッションが行われました。人身取引対策法に詳しい専門家を講師として招いての講義と話し合いが行われましたが、法律のすべてを理解するのには時間が足りなかったようです。

ワークショップ中、自分自身の体験を話したり、他人の体験を聞いたりしているうちに、過去のトラウマがよみがえってきて気分が悪くなる人が続出するということも

ありました。休憩を入れたり、癒しにつながるゲームを取り入れて再開したりしました。これまで、家族や親戚にも過去の体験談を語ることができず、自分一人で経験を抱えて耐えてきた人も多く、被害者の受けた精神的ダメージの深さが窺われました。また、ピアサポートグループの難しさを垣間見た気がしました。

FFWへの委託事業は単年度契約で今後 2 年間行われる予定です。その間に社会復帰・自立支援モデル構築に参考になる様々な活動が行われます。今後も MDT 通信で経過をご報告していくたいと思っていますのでどうぞお楽しみに！

